

国語 第6学年 物語を読んで考えたことを、伝え合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第6学年の読むことの単元で、同社の年間指導計画例では12月に置かれている。アメリカの絵本を翻訳した物語。他社の教科書を使う学校では、人物の見方や行動が変わっていく物語を読んで、自分の生活や読書経験と結び付けて考えをまとめる単元（学習指導要領C(1)オ）に置き換える。教科書に載っている部分と元の絵本との違い、人物の呼び方は、使う教科書で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、物語全体を通して人物の見方や行動がどう変わったかを、場面の表現を根拠にして説明できる。そのうえで、物語から考えたことを自分の生活や読書経験と結び付けて文章にまとめ、友達の考えと比べて、同じ物語から違う考えが生まれることや、自分の考えが広がったことに気付く。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕 (3)オ	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)エ	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと(2)イ	イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。
〔第5学年及び第6学年〕 の目標 (2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
〔第5学年及び第6学年〕 の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)コ	コ 世界の風土や文化などを理解し、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

単元の目標

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付く（(3)オ）。人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる（C(1)エ・オ）。物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けて、進んで伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（(3)オ）	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。（C(1)エ） ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）	①進んで、物語を読んで考えたことを自分の生活や読書経験と結び付けてまとめ、学習の見通しをもって、友達と伝え合おうとしている。

単元の流れ

全4時間（読むこと4時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（6年）で、この単元は12月、読むこと4時間。時ごとの内容はこちらの案。年間指導計画に合わせて増減する。国語の標準授業時数は第6学年で年間175単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○範読を聞き、初発の感想を書く。 ○時・場所・人物などの物語の設定を確かめる。 ○学習課題「物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けてまとめ、伝え合おう」と学習の計画を確かめる。	態①（初発の感想）
第2次	2	○物語の初めから終わりまでで、「カル」の、本とブック・ウーマンに対する見方がどう変わったかを、表現を基に捉え、「カルの見方の変化の図」にまとめる。 ○「カル」が語り手であることで、どんな所が伝わりやすくなっているかを考える。	思①（ワークシート）
	3 （本時）	○物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けて、ノートにまとめる。	思②（ノート）
第3次	4	○まとめた考えをグループで読み合い、共通点や相違点を語り合う。 ○学習を振り返る。翻訳された物語や、本を届ける仕事を題材にした本を紹介する。	知①（振り返り） 態①（観察・振り返り）

AI三重

本時の案

本時の目標：「カル」の見方の変化を基に、物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けて、自分の考えとしてまとめることができる。(C(1)オ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前の時間の「カルの見方の変化の図」で、物語の初めと終わりの「カル」の、本とブック・ウーマンに対する見方を確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○『カル』の変化を読んで、あなたが考えたことは何ですか。それは、あなたのどんな経験と結び付きますか」 【めあて】物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けてまとめよう。 〈予想される児童の反応〉 ・初めは、本なんて読まなくていいと思っていた。 ・終わりには、自分から本を読もうとしている。 ・ブック・ウーマンが、どんな天気の日も本を届けに来ることで、カルの気持ちが変わった。	・前時の図を黒板の右側に貼り、変化のきっかけになった出来事の所を示す。 ・本時は、物語の感想を書くのではなく、物語から考えたことを自分の経験と結び付けてまとめる時間だと伝える。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
展開 (分)	3 物語を読んで考えたことを、一文で書く。 ○「この物語を読んで、あなたが一番考えたことは何ですか」 4 考えたことと結び付く、自分の生活や読書経験を思い出して書く。 (観点の例)・何かを好きになったきっかけ ・人に助けられた経験 ・読んで考えが変わった本 5 ペアで、考えたことと経験の結び付きを説明し合い、足りない所を聞き合う。 ○「その経験は、物語のどの場面の『カル』と似ていますか。違う所はありますか」 6 考えを、物語の根拠と自分の経験を入れてノートにまとめる。 (型)「物語の…の場面で、『カル』は…。これを読んで、わたしは…と考えた。わたしにも…という経験があるからだ。…」 〈予想される児童の反応〉 ・好きなことは、だれかに言われるより、自分で気付いた時に始まる。 ・本を届けてくれる人がいるから、本が読める。 ・何かをずっとやり通している人を見ると、自分もやってみたくなる。 ・わたしも、兄が読んでいた本を最初はつまらないと思っていたけれど、読んでみたらおもしろかった。 ・図書館の先生がすすめてくれた本で、本が好きになった。 ・習い事をやめたいと思った時、がんばっている友達を見てもう少しやってみようと思った。	・考えたことが書けない子には、前時の図の「変化のきっかけ」の所を示し、「この時のカルを見て、どう思いましたか」と聞く。 ・経験が思い出せない子には、読書経験だけでなく、学校や家庭での出来事でもよいと伝える。観点の例を板書しておく。 ・「おもしろかった」「感動した」で終わる子には、「物語のどこを読んで、そう考えたのか」と返す。 ・物語の根拠は、場面と「カル」の行動で示させる。本文の表現を引く時は、使う教科書から先生がワークシートに書き入れておく。 ・家庭の事情など、話したくない経験は書かなくてよいことを伝える。 ・早く書けた子には、前に読んだ別の本と比べて考えを書き足させる。
まとめ (分)	7 二、三人が、まとめた考えを読み上げる。 8 振り返りを書く。	・読み上げは、物語の根拠と経験の結び付きがはっきりしている物を選ぶ。 ・振り返りは「自分の経験と結び付けて考えたこと」と「次の時間に友達に聞いてみたいこと」の二つで書かせる。 ・次の時間は、まとめた考えをグループで読み合い、共通点や相違点を語り合うことを伝える。 ◎思② 物語を読んで考えたことを、「カル」の見方の変化と自分の生活や読書経験を根拠にしてまとめている。(ノート)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ。右端に日付・題名・めあて。その左に前時の「カルの見方の変化の図」（物語の初めと終わりの「カル」の見方を上下に置き、間に変化のきっかけになった出来事を並べる）を貼る。中央に本時の問いと、子どもが考えたことを短い言葉で並べる。その左に、結び付ける経験の観点の例三つ（何かを好きになったきっかけ・人に助けられた経験・読んで考えが変わった本）。左端に、まとめの文の型と振り返りの観点二つ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は四つ。一つ目、「カル」が本を読むようになった、という結果だけを書き、何がきっかけで、どう見方が変わったのかが書けない。手当ては、第2時に初めと終わりの見方を上下に置いた図を作り、間に変化のきっかけになった出来事を並べさせること（C(1)エ）。二つ目、考えたことが「おもしろかった」「感動した」の感想で止まる。手当ては、「物語のどこを読んで、何を考えたか」を一文で書かせてから経験を探させること（C(1)オ）。三つ目、結び付ける経験が思い付かない。手当ては、観点の例を示し、読書以外の経験でもよいと伝えること。四つ目、語り手が「カル」であることに気付かず、ブック・ウーマンの気持ちを、書かれていることのように話す。手当ては、「この文は誰が見て、誰が話しているか」を確かめる問いを第2時に入れること。元は絵本なので、学校図書館に絵本があれば、絵と一緒に読み返させると、場面の様子が思い浮かびにくい子の助けになる（第3の2(3)）。

プリントの案

カルの見方の変化の図（第2時・本時）

上に物語の初めの「カル」の、本とブック・ウーマンへの見方、下に終わりの見方を書く枠。間に、変化のきっかけになった出来事を順に書く枠を三つ並べ、矢印で結ぶ。各枠の横に根拠の表現（書き写す）を書く欄。C(1)エを図の形にしたもの。本文は先生が教科書から書き入れるので印刷しない。

本時のワークシート

「物語を読んで一番考えたこと（一文）」「根拠になる場面と『カル』の行動」「結び付けた経験（生活か読書）」「似ている所・違う所」の四つの枠と、まとめの文の型。C(1)オに合わせた。

語り合いのメモ

グループの友達の名前と考えを書く欄、自分と「同じ所」「違う所」に印を付ける欄、「聞いて広がったこと」を書く欄。C(1)カに合わせた。

本の紹介カード

翻訳された物語や、本を届ける仕事を題材にした本について、題名、作者と訳者、どこの国の話か、読んで考えたことを書く。学校図書館で選んだ本で書く。〔知識及び技能〕(3)オに合わせた。

振り返りカード

本時の二つの観点と、第4時の「友達の考えを聞いて、自分の考えが広がったこと」の欄。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点の形、主体的に学習に取り組む態度の評価標準の作り方（粘り強さ・学習の調整・重点とする内容・言語活動）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（6年）の本単元の行。単元名・時期（12月）・配当時数（読むこと4時間）と指導目標の指導事項の出典。指導計画の文は写していない（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第5学年175・第6学年175）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／三重県教育委員会「みえ地物一番給食の日」にかかる指導案集（平成24年）ほか、三重県で公開されている小学校の学習指導案。見出しの順と表の列の形だけ使った（中身は写していない）（<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000058456.pdf>）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

